

研究に関する情報公開文書

下記研究は、名古屋市総合リハビリテーション事業団附属病院倫理審査委員会の承諾を得て、研究責任者の下で行われています。すでに実施済みの理学療法および心理評価に関わる計測データを下に行われるため、対象となる患者さんに新たなご負担はおかけいたしません。また、研究結果は学会や学術雑誌などに発表されることがありますが、患者さんのプライバシーは十分に尊重され、個人情報（お名前など）が外部に公表されることはありません。ご自身の検査情報が、この研究に使用されることに同意されない方は、下記の連絡先までご連絡いただければ、研究対象から除外させていただきます。研究へのご協力についてはいつでも拒否または撤回をすることができます。なお、同意されない場合でも、診療上不利益を被ることはありません。また、本研究に関して詳しい説明を希望される場合も、下記の連絡先にお問い合わせいただきますようお願い致します。

研究課題

安静度と心理評価バッテリーとの関連に関する予備的調査

研究責任者

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科
理学療法士 岡元信弥

研究組織

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科
理学療法士 佐藤晃、早野充浩、辻朋浩、近藤穰

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 臨床心理科
臨床心理士 曾我亜紀子、西出有輝子、岩田亜由美

研究期間

2019年3月25日～2019年12月31日（予定）

対象者

2019年3月1日～12月31日に名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院に入院している患者の内、Brunnstrom Recovery Stage（以下、Brs.）VIまたは麻痺がなく、下記の除外基準を除いた方。

[除外]

- ・転院などで中期評価実施困難
- ・初期評価時に6分間歩行（以下、6MD）Freehand歩行困難
- ・失調
- ・左半側空間無視
- ・失語
- ・歩行能力に大きく影響する合併症（視覚障害、心疾患など）

利用する情報

- ①基本情報（年齢、性別、疾患名、発症日、評価日、安静度（初期、中期、退院時）、転帰）
- ②理学療法評価（Brs.、6MD、FIM（運動・認知項目）、失調・左半側空間無視・歩行に影響する合併症の有無）
- ③心理評価

（知的：WAISⅢ（VIQ、PIQ、FIQ）、WAISⅣ

記憶：火事の話（直後、30分後）、S-PA（有関係、無関係）、REY 図形（再生、模写）

RBMT（プロフィール、スクリーニング）

注意：仮名拾い(正答数、ミス率)、D-CAT(1・2・3文字)、PASAT)

情報の管理

当事業団の個人情報の保護に関する規定に従って管理を行います。

「事業団個人情報の保護に関する規定」

http://www.nagoya-rehab.or.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/842/20180116-110553-8806.pdf

研究目的

入院患者において、身体機能的には屋外歩行可能でも、記憶・注意・遂行機能などの高次脳機能障害の影響から安静度を制限されている方が多い。しかし、その実態や判断基準などにおいて不明な点が多い。そこで、本研究では、高次脳機能障害者に対する安静度の評価指針の一助とするため、安静度と心理の評価バッテリーの関連性を調べることを目的とする。

研究方法

1. データの取得方法

対象者の下記データを電子カルテより取得する。

- ①基本情報(年齢、性別、疾患名、発症日、評価日、安静度(初期、中期、退院時)、転帰)
- ②PT評価(Brs.、6MD、FIM(運動・認知項目)、失調・左半側空間無視・歩行に影響する合併症の有無)
- ③心理評価

(知的：WAISIII(VIQ、PIQ、FIQ)、WAISIV)

記憶：火事の話(直後、30分後)、S-PA(有関係、無関係)、REY 図形(再生、模写)

RBMT(プロフィール、スクリーニング)

注意：仮名拾い(正答数、ミス率)、D-CAT(1・2・3文字)、PASAT)

2. 分析方法

上記の項目について、中期評価時の安静度により棟内群、院内群、屋外群にわけ、各群の多重比較検定を行い、安静度と心理評価バッテリーとの関連を調査する。

本研究に関する連絡先

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科

近藤 穰

愛知県名古屋市瑞穂区弥富町密柑山 1-2

TEL：052-835-3811 (内線 762 理学療法科)